

～岩手町観光協会の機能再編と今後の方向性について～

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：岩手町観光協会及び岩手広域交流センターの観光拠点としての多面的利活用に関するフィジビリティスタディー

研究代表者：総合政策学部 新田義修

課題提案者：岩手町

研究メンバー：熊谷洋造・伊藤賢（岩手町）

技術キーワード：観光協会、指定管理、施設利活用、農村RMO地域、SDGs

▼研究の概要（背景・目標）

現状と課題

- ・岩手町観光協会の業務は、委託先である商工会の業務多忙により、現行体制の維持が困難である。
- ・また、他の関連組織も業務を引き受ける余裕がない状況となっている。

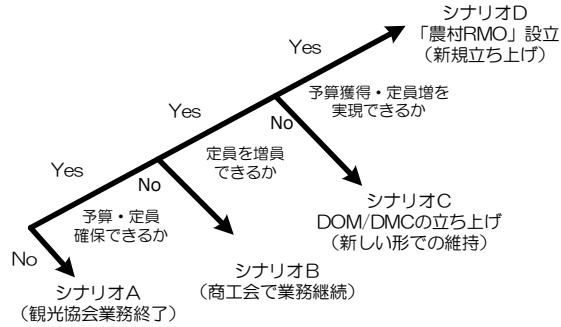


図1 モン・フレール・シナリオのロジック（仮説）
資料：調査結果より作成。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：岩手町観光協会、
岩手町商工会、岩手広域交流センター、
岩手町ふるさと振興公社、岩手町
2. 調査内容：岩手町観光協会の業務内容
及び関連する諸団体への聞き取り
3. 調査期間：2024年6月～2025年3月

▼研究の成果（結論・考察）

シナリオプランニングによる分析結果

- ・今後の方向性は「人員」と「予算」の確保という不確実な要素に左右される（図1）。
- ・これらが確保できなければ委託は終了となり（シナリオA）、現状維持（シナリオB）も困難と予測される（図1・表1）。

表1 提案を検討するに際し、想定したシナリオ

事務局員の雇用人数	農村RMOの補助金を活用し、最大5名の事務局員を雇用する。
KPIの設定	観光客数の増加、地域内経済の活性化度、観光資源の利用率などを想定できる。
予算規模	年間予算を2,000万円とし、補助金の割合を50%とする。

出典：著者作成

表2（仮称）「岩手フィールドホッケー・ツーリズム・ビューロー」（Iwate Field Hockey Tourism Bureau：IFT）の機能と役割

観光商品開発・コーディネート機能	・農村RMOや地域の農家、宿泊施設、体験事業者、交通事業者などと連携し、体験プログラム・ツアー商品の企画・運営を行う。 ・「ホッケー」を軸にしたスポーツ交流や「農村体験・食・自然アクティビティ」といった複合的な観光コンテンツを開発し、岩手町全体の魅力をパッケージ化する。
情報発信・プロモーション機能	・観光ポータルサイトやSNSを活用し、広域エリア（町内外・県内外）に向けて岩手町の魅力を発信する。 ・スポーツ合宿や農村ツーリズム等の誘客施策を展開し、ターゲットごとにプロモーション戦略を策定する。 ・旅行会社・メディア・学校など関係機関との調整や連携を図り、広域での集客につなげる。
事務局機能（調整・運営管理）	・岩手広域交流センターを拠点とした観光案内や相談窓口の設置 ・農村RMOを核とする関係者（農業者・商工業者・行政など）との連絡調整 ・事業予算の管理、補助金申請・報告、イベント等の運営サポート
マッチング・ネットワーク構築機能	・ホッケー関連で来訪する学生・チームと、受け入れ先（宿泊・食事・体験メニューなど）とのマッチング ・農泊やワーケーション等で地域滞在を希望する外部人材・企業と、地域資源（空き家、シェアオフィスなど）のマッチング ・広域連携先（近隣自治体、観光協会、他のRMO等）との連絡窓口としての機能

出典：著者作成

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

新たな組織設立の提案：現状を打開する具体的な策として、八幡平市の事例を参考にした「DMO/DMC」の立ち上げ（シナリオC）や、住民や団体が連携して地域活性化を目指す「農村RMO」の設立（シナリオD）という、新たな組織体制への移行を参考として提案した（表2）。

本研究は、ご要望をいただいた岩手町からの全面的な協力の下に実施された。記して感謝申し上げる。なお、本研究成果に関する見解や責任は、岩手町の要請等に基づくものではなく、あくまで、研究代表者に帰属するものである。